

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 4 日現在

機関番号：37118

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25590253

研究課題名(和文) 読書と作文のまちづくりに関する実践的研究

研究課題名(英文) Practical Research on Town Revitalization by Development of Cooperative Integrated Reading and Composition

研究代表者

鹿内 信善 (SHIKANAI, Nobuyoshi)

福岡女学院大学・人間関係学部・教授

研究者番号：20121387

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：グラウンドワークシステムをモデルとして「読書と作文のまちづくりに関する実践的研究」を行った。このシステムでは、「トラスト」とよばれる組織が機能している。本研究では今金町が組織した「読書と作文のまちづくりプロジェクトチーム」を「トラスト」として機能する組織に発展させることができた。活動に参加するのは子どもだけではない。男の読み聞かせ団体の結成、大人のためのお話会開催、社会教育主事による看图作文ワークショップ、幼児教育施設職員に対する看图作文研修等々、大人も巻き込んだ多様な活動が行われるようになった。今金町が「読書と作文のまちづくり」活動を持続的に行っていけるシステムをつくり上げることができた。

研究成果の概要(英文)：We have conducted a practical research project on town revitalization using a method we call “development of cooperative integrated reading and composition”. The research was modeled on Groundwork systems. The focal points of Groundwork are its “trusts”. In the town of Imakane, a project team was organized to perform a “Town Revitalization through Reading and Composition” project. We developed the project team by assigning Groundwork trusts. Groundwork trusts coordinate the mutual efforts of schools, local communities, administrative entities and universities. We achieved our study goal in that the model lets locals in Imakane town continue the activities in reading and composition indefinitely.

研究分野：社会科学

キーワード：まちづくり 看图作文 読書

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 学術的背景

望月善次(2009「国語科教育学の将来展望に関する八観点」『月刊国語教育研究』444号)は、8つの観点から「国語科教育学の将来的展望」を行っている。望月は、国語教育が貢献できる領域のひとつとして「学校・行政・大学・一般社会」の連携を挙げている。そして、次のように指摘している。「その『連携』の本格的な試みは漸く始まったばかりである。現状は、『連携』に関心のある者の多くも『自分の立場からの物言い』に止まっている段階であることを直視したい。」

要するに、国語教育の力によって「学校・行政・大学・一般社会」をつないでいく試みは、ほとんど未開拓のままになっていた。

### (2) 研究開始のための背景

一方鹿内は、国語教育の力によって「学校・行政・大学・一般社会」をつなげるために、3年近い時間をかけて周到な準備を重ねてきた。鹿内は、本研究のフィールドとなる今金町の行政・地域・学校に対して積極的な関わりや支援を行っていた。

行政に対しては、次のような支援を行ってきた。教委主催の「学びのキャンプ」へのコンテンツ提供・学生派遣によるサービスラーニングの実践・町内各学校に配置する特別支援員の人材提供、等々。地域住民には、親学講座等の生涯学習支援を行ってきた。学校に対しての支援も行っている。鹿内は「協同と創造の授業づくり研究会」を主宰している。この会によって、今金町学校教員の資質向上に貢献している。この会に参加している教員は、今金町教育の中核になっている。これらの活動を行うため、鹿内は研究開始前の3年弱の間に何度も今金町に赴いている。さらに、今金町からは、教育長をはじめとする教委スタッフが何度も鹿内の研究室に足を運び、研修を受けている。それによって「自らも学ぶ教育行政」を標榜できる今金町の態勢もつくり上げていた。

以上の活動によって、相互の信頼関係に基づく、大学と今金町(行政・学校・地域)との連携が可能になった。そのため、2011年度末に、「国語教育で学校・行政・地域・大学をつないでいくためのヴィジョン」を、鹿内から今金町に提案した。そのヴィジョンを実現するためのキーコンセプトが「読書と作文のまちづくり」である。

この提案を受けて今金町は、「読書と作文のまちづくりプロジェクトチーム(以下『プロジェクトチーム』)」を発足させた。このプロジェクトチームには、今金町の教育と文化を動かしている主立ったメンバーが参加している。このメンバーで研修会やワールドカフェも開催し、活動を広げていく準備も整えた。

以上のような問題状況・準備状況を背景として本研究を開始した。

## 2. 研究の目的

国語教育の力によって「学校・行政・地域・大学」をつないでいく。この領域の研究は、これまでほとんどなされてきていない。この未開拓の領域を切り拓いていく。そのために「読書と作文のまちづくり」というキーコンセプトを設定した。「読書と作文のまちづくり」活動で中心的役割を果たすのは、鹿内が「知のトラスト」とよんでいる組織である。「知のトラスト」は学校・行政・地域・大学のパートナーシップを築き活動を展開する。本研究では、まず、この組織を育成していく。それによって、市場モデル・経済効率モデルに基づかない、新しい「まちづくりモデル」を提案していく。さらに、町全体が持続して取り組んでいけるように「新しい読書と作文活動」のレポーターも蓄積していく。

## 3. 研究の方法

### (1) 「知のトラスト」の育成

環境改善による「まちづくり」活動が、様々なところで行われている。活動の成果が現れているところでは、グラウンドワークシステムが採用されている。グラウンドワークシステムでは、「トラスト」とよばれる専門組織が重要な役割を果たす。トラストは市民・行政・企業のパートナーシップをつくり出し、環境改善によるまちづくりを行っていく。本研究では、グラウンドワークシステムを「読書と作文のまちづくり」のモデルにする。

2012年度、今金町の教育と文化をリードしている人たちを集めて「今金町読書と作文のまちづくりプロジェクトチーム」を組織した。この組織を「読書と作文のまちづくり」を行う「知のトラスト」に成長させていく。「知のトラスト」は、「学校・行政・地域・大学」のパートナーシップをつくり出す役割を担う。本研究では、「知のトラスト」が中心になって活動する「読書と作文のまちづくり」のモデルを構築する。

### (2) 活動レポーターの創出と蓄積

今金町全体が持続して取り組んでいけるように、「新しい読書と作文活動」のレポーターも創出していく。まずは今金町での実践事例を積み重ねる。さらに、これまで鹿内と共同研究してきた今金町以外の実践家の実践も今金町に提供していく。

## 4. 研究成果

### (1) 「知のトラスト」の育成

最終年度は研究体制に大きな変化があった。ひとつは研究協力者であり、かつこれまで実践を牽引してきた今金町教育長が副町長に昇任し、教育行政からはずれたことである。もうひとつは「読書と作文のまちづくりプロジェクトチーム」代表が町議会議員になったことである。さらに大きな変化は研究代表者鹿内がフィールドである今金町がある北海道から福岡に異動になったことである。

昨年度までの活動体制とは大きく変わったが、読書と作文のまちづくり活動は昨年以上に遂行することができた。これは「読書と作文のまちづくりプロジェクトチーム」がさまざまな変化に対応できる「知のトラスト」に完全に成長できたことを意味する。「読書と作文のまちづくりプロジェクトチーム」は「学校・行政・地域・大学」のパートナーシップをつくり出し、昨年度以上の活動を行った。これについては、論文「今金町『読書と作文のまちづくり』活動報告( )」に詳しく報告してある。

### (2) 活動レパートリーの創出と蓄積

男の読み聞かせ団体「パイルドライバー」の結成・大人のためのお話会、など読書に関わる新規の活動も始まった。「読書と作文のまちづくりプロジェクトチーム」による学校現場以外での看図作文指導実践・認定こども園職員の看図作文研修会など看図作文の普及活動もすすんだ。論文「看図作文による地域貢献 - 中学生と保育所幼児の交流 - 」でも報告しているが、今金町以外での実践家からの実践コンテンツ・プログラムの提供もすすんだ。

さらに、聴覚障害をもつ子どもたちに対する読書や作文の指導方法を開発するという、新しい研究テーマも見つかった。

### (3) 間接的な成果

本研究を行うことによって間接的な成果も生まれた。今金町にはこれまで図書館がなかった。しかし、「読書と作文のまちづくり」実践研究を継続する中で、図書館建設構想が具体化してきた。町議会では図書館建設に向けての特別委員会が設置された。また「読書と作文のまちづくり」実践研究に研究協力者として関わってきた今金町教育長(現副町長)は、「今金町『読書と作文のまちづくり』活動報告( )」論文の中で次のように明言している。「今金町は、現在、読書と作文のまちの拠点となる住民待望の図書館建設が具体化している。2019年の完成を目指して、住民と行政が一体となったプログラムが進行している。」

以上から、研究計画調書にも記載した「『読書と作文』という文化活動によってコミュニティーの醸成」をはかることもできた。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計23件)

鹿内信善, 看図アプローチが導く主体的学び, 主体的学び, 査読無, 4号, 2016, 3-17

鹿内信善, 佐田明菜, 中尾慎矢, 石山信幸, 看図アプローチをキーワードにした校内授業づくり研修の試み - 南筑高校の事例 -, 福岡女学院大学大学院紀要発達教育学, 査読無, 1号, 2016, 57-63

鹿内信善, 鈴木有香子, 看図作文による地

域貢献 - 中学生と保育所幼児の交流 -, 福岡女学院大学大学院紀要発達教育学, 査読無, 1号, 2016, 43-49

溝上広樹, 吾妻行雄, 鹿内信善, 高校生物における看図アプローチを利用した授業実践 - ウニからその生態と東日本大震災を考える -, 福岡女学院大学大学院紀要発達教育学, 査読無, 1号, 2016, 21-25

鹿内信善, 坂口幸美, 安氏洋子, 幼稚園を活性化する教育方針とその実践, 福岡女学院大学大学院紀要発達教育学, 査読無, 1号, 2016, 7-12

伊藤公紀, 小川ひとみ, 白岩政浩, 船木恵, 中島光弘, 鹿内信善, 今金町「読書と作文のまちづくり」活動報告( ), 札幌大学総合論叢, 査読無, 41号, 2016, 35-47

伊藤裕康, 伊藤公紀, 石田暁子, 鹿内信善, 外国人留学生を対象にした看図作文授業の試み, 道都大学紀要美術学部, 査読無, 42号, 2016, 49-56

鹿内信善, 渡辺聡, 計良志織, 石田ゆき, 看図アプローチ協同学習で克服する和食給食食べ残し - 授業モデルの提案 -, 福岡女学院大学紀要人間関係学部編, 査読無, 17号, 2016, 7-13

<http://hdl.handle.net/11470/138>

田中瑞穂, 鹿内信善, 聾学校小学部第6学年での看図作文の実践 - 協同学習ツールのいかし方 -, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 査読無, 66巻2号, 2016, 23-36

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7865>

鹿内信善, 徳永基与子, 山下舞琴, 看図アプローチへの招待6看図アプローチを教科書の学習につなげる, 看護教育, 査読無, 57巻6号, 2016, 500-507

鹿内信善, 徳永基与子, 石田ゆき, 看図アプローチへの招待5看図アプローチでできるメタ認知指導, 看護教育, 査読無, 57巻5号, 2016, 400-407

鹿内信善, 徳永基与子, 平野加代子, 看図アプローチへの招待4看図アプローチだからできる協同学習ファシリテーション, 看護教育, 査読無, 57巻4号, 2016, 298-305

鹿内信善, 徳永基与子, 石田ゆき, 看図アプローチへの招待3看図アプローチ, 学習者は「みて」何を考える, 看護教育, 査読無, 57巻3号, 2016, 212-217

鹿内信善, 徳永基与子, 山下舞琴, 看図アプローチへの招待2看図アプローチは授業マジックです~そのタネあかし, 看護教育, 査読無, 57巻2号, 2016, 132-136

鹿内信善, 徳永基与子, 平野加代子, 看図アプローチへの招待1授業に協同学習を取り入れたいのですが~それなら看図アプローチです, 看護教育, 査読無, 57巻1号, 2016, 50-54

鹿内信善, 「看ること」から始める授業づくり~看図アプローチとは何か, 看護教育, 査読無, 56巻8号, 2015, 774-779

鹿内信善, 看図アプローチ協同学習による幼稚園教育実習事前指導, 協同と教育, 査読無, 11号, 2015, 7-13

田中瑞穂, 鹿内信善, 聾学校小学部低学年での看図作文の実践 - 協同学習ツールとしての活用 -, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 査読無, 66巻1号, 2015, 101-114  
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7806>

田中瑞穂, 鹿内信善, 聾学校での幼児同士による絵本読みの実践報告, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 査読無, 65巻2号, 2015, 335-347

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7694>

田中瑞穂, 鹿内信善, 聴覚特別支援学校(聾学校)での早期教育における二言語環境整備, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 査読無, 65巻1号, 2014, 413-423

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7539>

21 鹿内信善, 李軍, 看図作文の教育史と今後の展望, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 査読無, 65巻1号, 2014, 17-31

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7524>

22 石川清英, 石田ゆき, 伊藤裕康, 伊藤公紀, 鹿内信善, 「まちづくり概論」授業からの発展 - 授業で高めたモチベーションの持続可能性について -, 道都大学紀要美術学部, 査読無, 40号, 2014, 39-56

23 伊藤裕康, 石川清英, 石田ゆき, 伊藤公紀, 鹿内信善, ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善( ) - 「産業景観」を教材とした「くらしと景観」授業の追実施 -, 道都大学紀要美術学部, 査読無, 40号, 2014, 57-67

〔学会発表〕(計9件)

田中瑞穂, 石田ゆき, 鹿内信善, 聾学校小学部低学年での協同学習 - 看図アプローチによる作文指導 -, 日本協同教育学会第12回大会, 2015年10月18日, 久留米大学(福岡県久留米市)

渡辺聡, 計良志織, 石田ゆき, 鹿内信善, 看図アプローチ協同学習で克服する和食給食食べ残し, 日本協同教育学会第12回大会, 2015年10月18日, 久留米大学(福岡県久留米市)

安氏洋子, 徳永基与子, 鹿内信善, 看図アプローチ協同学習ワークショップ - 幼稚園教員養成・看護教育等でのいかし方 -, 日本協同教育学会第12回大会, 2015年10月18日, 久留米大学(福岡県久留米市)

鹿内信善, 協同の学びをひきだす看図アプローチ, 日本協同教育学会九州支部2015年1月例会, 2015年1月31日, 久留米大学(福岡県久留米市)

田中瑞穂, 鹿内信善, 看図アプローチでことばを生み出す実践 - 日本手話ネイティブ・

保護者との協同教育 -, 日本協同教育学会第11回大会, 2014年10月25日, 創価大学(東京都八王子市)

中島光弘, 小川ひとみ, 山寺潤, 鹿内信善, 学校・地域・行政・大学の協同による教育づくり・まちづくり - 今金町「読書と作文のまちづくり」 -, 日本協同教育学会第10回大会, 2013年11月30日, 札幌大学(北海道札幌市)

山寺潤, 石田ゆき, 鹿内信善, 看図作文授業づくりワークショップ, 日本協同教育学会第10回大会, 2013年11月30日, 札幌大学(北海道札幌市)

森寛, 石田ゆき, 鹿内信善, 協同学習ツールとしての看図作文 part2, 日本協同教育学会第10回大会, 2013年11月30日, 札幌大学(北海道札幌市)

鹿内信善, 読書と作文のまちづくり - 道南「今金町」の取り組み -, 日本国語教育学会共催第9回大村はま記念国語教育の会研究大会, 2013年10月12日, 遷喬小学校(鳥取県鳥取市)

〔図書〕(計4件)

鹿内信善, ナカニシヤ出版, 改訂増補協同学習ツールのつくり方いかし方 - 看図アプローチで育てる学びの力 -, 2015, 142

鹿内信善, 溪水社, 絵図を活用した授業実践 - 多様な言葉をうみ出す絵図メディア - 浜本純逸監修『メディア・リテラシーの教育』, 2015, 71-90

鹿内信善(編), 森寛, 兒玉重嘉他, ナカニシヤ出版, 見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち - 看図作文レパートリー -, 2014, 198

鹿内信善(編), 石田ゆき, 渡辺聡他, ナカニシヤ出版, 協同学習ツールのつくり方いかし方 - 看図アプローチで育てる学びの力 -, 2013, 142

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鹿内 信善 (SHIKANAI, Nobuyoshi)  
福岡女学院大学・人間関係学部・教授  
研究者番号：20121387

(2) 研究分担者

伊藤 裕康 (ITO, Hiroyasu)  
道都大学・美術学部・准教授  
研究者番号：20295926

研究分担者

石川 清英 (ISHIKAWA, Kiyohide)  
道都大学・美術学部・准教授  
研究者番号：40405692

研究分担者

伊藤 公紀 (ITO, Kohki)  
札幌大学・地域共創学群・教授  
研究者番号：80265123